



宮内 洋次 さん (41)

[お食事処 船宿のま池 / 定置網漁]

南さつま **縁** 人 VOL.29  
MINAMISATSUMA ENGINE

**笠** 沙町野間池を訪れる観光客や常連にも人気の食堂『お食事処 船宿のま池』。宮内さんは「目玉は、定置網漁の朝獲れ鮮魚を使った料理。地のものを地元で食べてほしい」とPRします。

低迷する魚価を打開するために父・叶<sup>かろう</sup>さんが始めた食堂や観光定置網など漁業の多角経営に魅力を感じ、県外で調理師と潜水士の資格を取得、ダイビングインストラクターを経験後、25歳で帰郷、家業に就きます。宮内さんは主に観光事業を担当し、平成17年に既設の食堂の近くにダイビング利用客を受け入れるための宿泊施設を備えた『船宿のま池』をオープン。平成27年に台風被害を受け食堂が全壊し、ダイビング部門を縮小して1階部分を改装、『お食事処 船宿のま池』として再開します。現在は、新型コロナウイルスの影響により民宿部門を大幅に規模縮小し、食堂を主体に営業しています。

通常は、朝5時に起床して漁に出、8〜9時に水揚げ、14時までは食堂に立ちます。加えて、県のかごしま漁業学校の漁業研修生

受入れに協力するなど漁業の担い手育成や、漁協の理事を務めたりと精力的に動いています。今年8月3日には、地域において意欲的に漁業に取り組み、中核的漁業者として活動しているとして、県知事から『青年漁業士』認定を受けました。

宮内さんは「自然相手の仕事のため、まずは体を労わりながら、若者が過ごしやすく働きやすい環境を整え、後継者育成に取り組みたい。新型コロナウイルス終息後は、若者に地方・田舎暮らしの良さが広がっていくのではと予測している。野間池にも光ブロードバンドが開通し、あとは国道226号の改良工事を待つだけ。野間池への人の流れが大きく変わると期待したい」と事業継続の意欲と今後の展望を示します。



青年漁業士に認定

南さつま市に住む人、働く人、生き生きと活動している人を、南さつま市の輝く原動力（エンジン）としてご紹介します。